

白岡市教育長賞

『夢』を与えてくれた税金

白岡市立篠津中学校 一年

馬 上 愛 唯

今年は中学校の社会の課題で「税の作文」があることを知った。最初は軽い気持ちで「こんな作文があるんだ。」くらいだったが、思い出したんだ。あのランドセルを背負っていた小学校六年生の時、租税教室があったことを。

最初の税金のイメージは、商品を買う時にお金を一〇%無駄に払っているという悪いイメージがあった。でもこの教室で税金が無くなったらどうなってしまうのかのDVDを見て、私の税金に対しての悪いイメージがとっても良いイメージになった。

その動画では、税金が無くなったら学費や教科書などは全て払わなくてはならない。町中がゴミだらけ。道路を渡るのに通行料がかかる。信号が動かない。交番はお金がかかる。公園が無くなる、など話したらキリがない。みなさんは、このような税金がない世界になったらどうだろう。私は、全ての人が困ると思う。なぜならば、「元々税金はみんなが豊かで夢のある生活を送るためにある。」と教えてくれたからだ。確かにその通りだ。みんなが協力して、みんなの税金でまかっているからみんなの『夢』につながるのだ。私は強く思うことが出来た。税金のおかげで。

この租税教室がきっかけで、私は一步前進することが出来た。だから税金についてもつと知りたくなった。

私たちの支える税金は、およそ五〇種類があり、税金の使われ方は選挙で選ばれたみんなの代表が話し合って決めるらしい。税の事を調べていると、気になる言葉があった。それは国税庁だ。日本の行政機関の一つ。国税庁は、昭和二十四年に大蔵省の外局として設置され、国税事務を行っている組織。国税庁の下には、全国に十二の国税局の五百二十四の税務署が設置されている。ちなみに消費税は平成元年に導入されたらしい。消費税が、平成から始まったことが知れて、歴史を感じることができた。

税金は、日本のみんなが当たり前のように使用していて、当たり前のようになくてはならない存在だったのだ。税金は、みんなの未来に『夢』を与えてくれる魔法だ。これまで税金に興味を持てたのも租税教室があったから。今回の先生方に感謝を伝えたい。ありがとうございました。